



## ここにいて大丈夫、そう感じられる居場所

青少年教育センター所長 大熊 敬子

青少年教育センターは、子供たちが安心して過ごし、自分らしさを取り戻していける「居場所」であることを何よりも大切にしています。子供たちが抱える悩みや不安は一人一人異なり、同じものは一つとしてありません。まずは「ここにいて大丈夫」と感じられることが、未来へと踏み出す力につながると私たちは考えています。

かつて私が相談員として勤務していた頃、今も忘れられない一人の少女との出会いがありました。つらい思いを抱えていた彼女は、来所し始めた頃、血の涙を流す人物や鎖でがんじがらめになった人物を描いた絵を見せてくれました。おそらく、言葉にできない苦しさを、精一杯の表現で訴えていたのだと思います。私は、その思いが少しでもほどけていくことを願い、彼女の表現を「否定せず」「そのまま受け止める」ことを大切にしながら寄り添い続けました。



やがて、彼女は少しずつ自分らしさを取り戻し、ある日、明るい色彩に満ちたあたたかな絵を携えて私のもとを訪れました。以前とはまるで別人のように、ピンクブラウンの明るい髪色と同じ、生き生きとした明るい表情で、「美術大学に進学することになりました」と報告してくれた姿は、今も胸に残っています。彼女の変化は、安心して過ごせる居場所があることの力、そして、自分の気持ちを表現できる環境の大切さを改めて教えてくれました。



子供たちは、それぞれのペースで成長し、変化していきます。当センターは、劇的な変化を求めるのではなく、安心できる小さな瞬間を一つ一つ積み重ねながら、その子らしい歩みを支える存在でありたいと考えています。

社会の変化が大きく、未来が見通しにくい現代において、子供たちが家庭や学校だけでなく、地域や当センターをはじめとする様々な機関の中で、「ここにいていい」と感じられる居場所をもつことは、一歩を踏み出すための何よりの土台となるものです。学校のこと、進路のこと、人間関係のこと、時には言葉にならない不安を抱えた子供たちが訪れたとき、誰もが安心して深呼吸できる場所であり続けられるよう、当センターは、温かさと専門性の両面から寄り添ってまいります。

今後とも、青少年教育センターへの御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 面接相談&電話相談

◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など、青少年に関する相談を直接（面接）または電話で行うことができます。



### 1 面接相談 Tel951-3440

◎相談受付時間…午前9時～午後5時 月～金曜日（祝祭日を除く）

「はばたき だより」第5号より

お子様のことで気になることがありましたら、電話で相談をお申し込みください。

☎055-951-3440 \*月～金 9:00～17:00

青少年教育センター（沼津市八幡町97）の4階に面接室があります。

保健センターと同じ建物です。

\*電話相談「やまびこ電話」（匿名相談を受付）もぜひご利用ください。

☎055-951-7330 \*月～金 10:00～19:00



【当センターQRコード】

### 2 電話相談（愛称：やまびこ電話 951-7330）

◎相談受付時間……午前10時～午後7時 月～金曜日（祝日を除く）



## 情報コーナー

## 「どもってもいいんだよ」

青少年教育センター 言語聴覚士 木内 園子

青少年教育センターでは、言語聴覚士による「ことばの相談」を実施しています。相談の一つに「吃音」があります。言いたいことが頭に浮かんでいるのに、そのことばがスムーズに出せない症状を「吃音」と言います。ことばが急速に発達する幼児期に約20人に1人の割合でみられ、大半は自然になくなりますが、大人になっても約100人に1人は症状が残ると言われています。その割合は世界でも共通しています。詳しい原因はまだ解明されておらず、「これを飲むと治る」という薬や「この訓練で必ず治る」という治療法は確立されていません。話し始めのタイミングの障害とも言われ、歌を歌ったり、誰かと一緒に声を出したりする場面では症状が見られないという特徴があります。

発話に時間がかかることもあり、緊張しているから吃音が出ると思われがちですが、安心できる場の方が吃音は出やすい場合もあります。そのため、「ゆっくりでいいよ」とか「落ち着いて」などの助言は逆効果になります。周りが「どもってでもいいんだよ」と伝え、本人が「どもってでもいいんだ」と思える環境を家庭や園、学校で作っていくためには、皆が吃音について正しい知識を持つことが大切だと感じています。



小学校の「ことばの教室」は、吃音の症状を持つお子さんが通うことができます。こども自身が、吃音クイズなどを通して吃音の知識や声の出るしくみなどを学びながら、学校での困り感（日直当番や授業での発表、計算カードの口唱、卒業式でのことばなど）を先生と共有し、どのように対処していくかを学ぶ場となっています。吃音という症状に対して、一緒に伴走してくれる先生の存在はとても大切です。また、グループ活動などで一緒にいる仲間の存在も大切です。「自分だけではない」ということを知ることで、気持ちがとても楽になります。



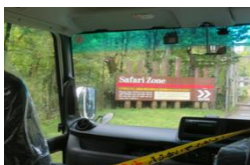
## 【はばたき】 【相談指導学級】 の様子

### 【体験活動「はばたき」】

(通称：はばたき活動)

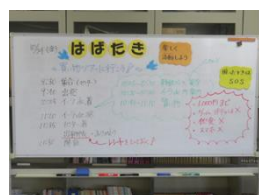
10/9(木)富士サファリとこどもの国(9人)  
10/24(金)買い物ツアーに行こう(6人)  
11/6(木)鮎壺公園で遊ぼう(6人)  
11/20(木)ヨガに挑戦(1人)  
12/4(木)市立図書館見学ツアー(3人)  
12/17(水)竹スプーンづくり(4人)

はばたき活動は、面接相談とは異なり、相談指導学級通所生や担当以外の職員とも関わることができる小集団活動です。



【10/9富士サファリ】

「買い物ツアーに行こう」では、買い物以外の活動として、スーパーのバックヤードを見学しました。



【10/24買い物ツアー】

「鮎壺公園で遊ぼう」では、新しく整備された鮎壺公園で、いろいろな遊びを楽しみました。



【12/17製作作品】

「竹スプーンづくり」では、小刀で竹を削って、食事等に使えるスプーンづくりを楽しみました。

### 【相談指導学級】(通称：はばたき教室)

部屋を増設し、「スタディルーム」「わくわくルーム」の二つになってから9か月が経ちました。「わくわくルーム」ができたことで、小学校低学年の学級利用数も増え、今まで以上にどの子にとっても利用しやすい相談指導学級になったのではないかと思います。

最近では、「スタディルーム」利用の子と「わくわくルーム」利用の子の交流も増え、ふれあいの時間に、一緒に体育室で体を動かしたり、生活室で人生ゲームなどのボードゲームを楽しんだりすることもありました。小さな子ほど感情をストレートに大きな声で表現しますので、笑い声や歓声が今まで以上に増えたように感じます。また、中学生が小学校低学年の行動に目を配り、甲斐甲斐しく面倒を見る姿もあり、微笑ましくなっています。年齢の上の子にも下の子にも相乗効果が期待できる活動になっており、うれしい限りです。ここに来所したとき、来る前より、少しでも元気になって帰ってくれたらと願ってやみません。

3学期の開所日は、1月7日から3月19日までの48日間です。一年を振り返る中で、自己の成長を自覚し、次の目標を立てる大切な時節となります。すべての子が、4月からの新しいステージでも自分から一歩が踏み出せるよう、引き続き一人一人に寄り添いながら支援をしていきたいと思っています。



### 青少年教育センターの活動予定(2・3月の主な活動) \*天候等により、変更することがあります。

はばたき活動		補導関係	
2月6日(金)	軽スポーツを楽しもう	2月13日(金)	補導委員会代表者会
2月18日(水)	紙粘土で作ろう		
3月6日(金)	楽寿園に行こう		
中央補導			
2月	3(火) 4(水) 6(金) 17(火) 18(水) 20(金) 24(火) 25(水)		
3月	3(火) 4(水) 6(金) 10(火) 11(水) 13(金) 25(水) 27(金)		



## 補導記録より 10月～12月

- ・カードショップで、カードを選んだりゲームをやったりしていた中学男子を見かけた。
- ・沼津署スクールサポーター同行。駅で、携帯をベンチに置き忘れた小学生に声かけ。
- ・沼津駅構内で、歩き読書をしていた小学男子1人に声かけ。
- ・金曜夜、狩野川沿いで高校生カップル3組に声かけ。
- ・地域の公園にいた高校生カップルや別の公園のベンチで談笑中の高校女子2人に声かけ。
- ・駅北の商業施設2階駐車場で、寝転がっていた高校男子4人と荷物や財布などを置きっぱなしにした高校男子1人(あとから、高校女子2人が合流)に声かけ。
- ・小学男子2名が自転車の無灯火だったので、ライトを点けようねと声をかけた。
- ・地区補導部主催の講演会を実施後、校区内パトロールを行った。



【12/2 冬季少年補導】

## 補 導 の 目

# 高校生によるクリーン作戦

青少年教育センター 黒石 泰司

沼津市では、11月の県子供・若者育成支援推進強調月間に合わせ、青少年の健全育成事業の一環として、高校生による社会的環境整備活動を実施してきました。『落書きクリーン作戦』を含めると、今年度で25年目を迎えます。昨年度までは市内高校の輪番制で実施していましたが、今年度は、市内高校にボランティア募集のお知らせを配布し、高校生本人が参加申し込みをする形を取りました。

11月8日(土)に、市内高校6校、計30名の高校生が青少年教育センターに集合しました。出発式で、蛇松緑道がかつて鉄道であったことや蛇松という名称の由来などの歴史を学ぶ時間を設けたことも、参加高校生に好評でした。その後、蛇松緑道に移動し、樹木の隙間のゴミ拾いや歩道に積もった落ち葉を片付ける活動に取り組みました。高校生自らが、自身を取り巻く社会環境の整備に参加することで、社会の一員としての自覚を持つとともに、自分たちが暮らし学ぶ沼津市の環境・景観について意識する機会となりました。



【11/8 蛇松緑道での活動の様子】

### 「高校生によるクリーン作戦に参加して」

桐陽高校 村上 瑠音

私はこのボランティア活動に参加して、他のボランティアとは異なりレクチャーの時間があり、沼津のいろいろな歴史を知ることができました。蛇松緑道という場所も知らず、昔は鉄道が通っていたことなどにも驚きました。



実際に蛇松緑道の美化活動を行ってみて、たくさんの落ち葉やゴミがありました。清掃をしてだんだんときれいになるにつれて、やりがいを感じ、参加して良かったなという気持ちになりました。今回だけでなく、今後も様々なボランティア活動に、自分のためにも、みんなのためにも参加したいと思います。

【11/8 参加者集合写真：蛇松緑道陸橋にて】